

OPINION オピニオン・スライス SLICE

HARIKA HORIUCHI

同志社大学体育会ラグビー部所属

堀内春香さん

— 男の格闘技と言われるラグビーで、しかも名門同志社大学ラグビー部に入部されたきっかけは

高校（同志社香里高校）のときから男子と一緒にやっていた、大学でも続けたいという思いからです。高校の監督さんは、初めは入部を認めていただけませんでした。コンタクトがあるスポーツなので、安全のこともありましたし、香里のラグビー部は女子マネージャーも禁止で、女子部員は一切採らないと。ラグビー部に女子がいるというのは前代未聞だ、みたいなことがあったのですが、何回か通って監督のところへ頼みに行ったら、練習生として一緒に練習するだけやったらええよみたいな感じで…。大学に入学する際に、高校の監督に大学でもプレーを続けたいという意志を伝え、大学側からもオッケーをいただけたということで、あとは他の部員と同じように測定をして、練習にもはっていました。

— そもそも、どうしてラグビーなのですか

弟がやっていたので、ラグビーが身近にあったらからそのまま普通に入っていたという感じですかね。ラグビーやってよかったなと思うのは、フィットネスとかも走り込んできつけれど、みんな励ましてくれて、みんなで乗り越えようみたいな感じがすごくいいなと思います。チームスポーツやなってすごい感じられる瞬間です。ほかの競技に比べてきつくないですか。ラグビーは当たるし、走るし。その分、試合の中で1人に対する責任感も大きいし、それが15人集まってやると点が取れたりするので。

— 女子だけでクラブを作らずに、男子だけの部へ入って男子と一緒にとなったのは

女子部をつくるのにまず時間がかかるじゃないですか。人も集まらない。同志社でやっているのがまず私しかなくて、友達もそれぞれスポーツをやっていて、誘っても「絶対無理」、「私はやらない」

という子ばかりで、他の子を誘っても無理でした。練習の質とか量を考えたら、もともとある男子のラグビー部に入るほうが早いなと。

— ラグビー部に入るといったときに周りの反応は

友達は「すごいね」みたいな感じでした。おばあちゃんは「危ないからやめとき」と。両親は「やれるところまでやったらいいんじゃないか」と。みたいな感じでしたが。

— 具体的な練習方法は

全然深く考えてなくて、自然に入っていくって同じことをしていました。タックルの練習とか人と人同士が接触する練習は、自分がこれは危ないなと思ったらすっと抜けたりとか、入ろうとしても監督が危ないと思われたら、これは抜けとけと言われてたりです。女性だからということから初めから練習内容を制限するということが全くなかったです。普通にほかの男子部員と同じような練習をしていました。一緒に走ってましたが、初めは全然ついていけないんですよ。体力も、みんな

のほうが足も速いし。一番最後の組で遅れながらも走っていました。コンタクトプレーも一応原則はやっています。もともと大学では、やっぱり男の子も気を使うし、向こうの練習にもならないし、というのはこっちも思っているの、それなりに一歩引いてやっています。

— 7人制ラグビーは、男女とも2016年のオリンピックの種目に決まりましたが

7人制がオリンピック競技に決まったことで、女子ラグビーへの注目が高まったことは大変嬉しく思います。私はラグビーの魅力はあくまで15人制にあると思っていますが、オリンピックをきっかけに女子ラグビーを始める子が一人でも増えてくれればなと思います。

— 「弁護士」のイメージは

賢そう？「リーガルハイ」はおもしろいですね。ああやってぼんぼん言われたことに対して、うまいこと言葉のあやとか、ついていく感じが、「わあ、すごいな」と。

(Interviewer: 桂 充弘 / Photo: 武田)



みんなで乗り越えよう
という感じが…